

## ディリ・シワコチ、ネパール

ネパールは、南アジアに位置する小さな内陸国で、インドと中国という二つの人口大国の間に挟まれています。また、ヒマラヤ山岳地帯の中央に横たわり、60mの Terai から 8,848mのエベレスト山まで標高差があります。このような標高差は、洪水や地滑り、山崩れ、土壌浸食といった災害に対する脆弱性を高めています。特にネパールは世界でも最も深刻な洪水多発国です。洪水の規模の大きさは、多大な降水量、高湿度、峻険な分水嶺そして河道によって影響されます。



ネパールの災害対策システムにおいては、災害発生後に多くの資金と労働力をつぎ込みますが、全体としてのシステムは遅れており、あまり優れたものとは言えません。ネパールでは、防災対策や救助・救援、復興・復旧といった災害に伴うさまざまな段階において、諸問題を抱えています。直面している問題の中には、困難な地域計画、不十分なインフラ施設、低い識字率、先端技術に関する知識の欠如、計画的でない住民の定住、人々の参加と協調のなさがあげられます。

こうした背景から、ネパールでは過去の経験から学びとり、災害に伴うどの段階においても人々の参画を強く促す必要があります。私の個人的な考えといたしましては、多機能の防災政策モデルの策定がカギとなると思います。そうするためには、国のあらゆる関係者が機動的になり、国際協力を積極的に受け入れるべきであると考えています。

(ネパール内務省防災局局長 ディリ・Pd.・シワコチ)